

文教速報

平成二十二年十月六日(水曜日) 第七五〇〇号

=隔日刊 月・水・金=
(但し祭日休刊)
月額6,825円(税込)
◎官庁通信社

官庁通信社

〒101-0041
東京都千代田区
神田須田町 2-13-14
総務部
(03)3251-5751
FAX 5753
編集部
(03)3251-5755
FAX 5753
E-mail:bunkyo@
kancho-t.com

- ◎ 神戸大がブリュッセルオフィス開所セレモニー
- ◎ 埼玉大、埼玉りそな銀行との協議会を開催
- ◎ アルツハイマー病などの治療へ大きな一歩
- ◎ 山口大教授ら研究グループが遺伝子を発見
- ◎ 生協からの寄付でLED照明器具を導入
- ◎ 信州大、繊維学部百周年記念の広告が準優秀賞に
- ◎ 広島大、国際産学官連携研修会を開催
- ◎ タイ・カセサート大使が千葉学長を訪問
- ◎ 天皇后両陛下が海洋大館山ステーションを視察
- ◎ 森田学術機関課長らが天文台を視察
- ◎ 情報研、マイクロソフトと連携協定

10月1日人事

- ※ 千葉大、課長級の後任補充や組織再編人事を発令
- ※ 再生研、iPS研などの事務組織を再編
- ※ 統数研、転出の総括TLの兼務発令

- ◎ 福岡地区3高専事務職員研修会を開催
- ◎ 明石高専、有識者懇談会を開催
- ◎ ハノイ工科大学長らが木更津高専を視察
- ◎ 小山高専、外部評価委員会を開催
- ◎ 第3次文科省・関係機関工事発注見通し
- ◎ 設計・コンサル業務発注見通し
- ◎ 留学生の日本語教育懇談会が取組を提言
- ◎ 学校長期自然体験活動指導者養成研修
- ◎ 国立新美術館「没後120年ゴッホ展」が開幕
- ◎ 東大物性研と原子力機構が中性子科学研究協力で覚書
- ◎ 九大、来年5月14日に創立百周年記念式典

〔通知〕有資格業者の指名停止について

有明高専、キャッチコピーが決まる

「花咲く技術をHere are Lights」

有明高専は、学校を象徴するキャッチコピーを募集し、正式に決定した。キャッチコピーは、在校生、教職員に募集し、応募総数三十六件の中から、「花咲く技術をHere are Lights」が選ばれた。

このキャッチコピーは、有明高専の技術者教育が技術力を伴うものであるということに加えて、豊かな人間性も兼ね備えた技術者を育成することを意味する。また、英文表記では、人間性を育成するには光が必要であり、その光が有明高専に満ちあふれていることを表現した。

キャッチコピーは、今後、広報誌や公用車等で学校の広報用として活用し、有明高専の知名度アップに大いに繋げていくことを期待している。



有明高専のロゴ
マークとキャッチ
コピー

いわて高等教育コンソーシアムSD研修を開催Ⅱ岩手大

いわて高等教育コンソーシアム(平成二十年度文部科学省戦略的連携支援事業、連携校・岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学)は去る九月十七日、「平成二十年度いわて高等教育コンソーシアムSD研修」を開催したⅡ写真Ⅱ。

いわて高等教育コンソーシアムは、地域の中核を担う人材の育成や大学進学率の向上、地域社会への貢献など、地域的課題を解決するため県内五大学が連携して設立。五大学の職員の能力を向上させ、教育研究環境の改善を目的にSD研修を実施した。

三回目となる今回は、「学生支援業務に関する能力の向上に向けて」をテーマに、各大学が参加。コンソーシアムの構成メンバーが一緒になったグループワークで、大学を取り巻く環境変化と学生支援業務の位置づけ、さらには学生支援業務における現状と課題を確認するとともに、グループ別の発表で認識の共有化を図った。

続いて、コミュニケーションの基本について、講師の棚マネジメントサービスセンター

広島大、国際産学官連携研修会を開催

広島大学では、平成二十二年国際産学官連携研修会を去る九月十七日に開催した。この研修会は、平成二十二年文部科学省「イノベーションシステム整備事業(大学等産学官連携自立化促進プログラム【機能強化支援型】)」の一環として行ったもの。中国地域五大学との連携を視野に入れた国際法務・契約・リスク管理への取り組みや実績を紹介した。

研修会では、藤岡幸男副理事(社会連携担当)・社会連携推進機構長による挨拶に続き、名大産学官連携推進本部産学官連携推進室の阿部正廣国際連携部長・特任教授による「名古屋大学の国際法務とリスク管理について」と題した講演が行われた。

また、広島大産学・地域連携センターの橋本律男国際産学連携部門長による「広島大学の国際法務とリスク管理について」、永島橋本法律事務所の永島孝明弁護士による「米国の知的財産に関する最近の動向(判例等)」をテーマとした講演や、山形大大学院理工学研究科の足立和成教授による講演「安全保障貿易管理について」がそれぞれ行われた。さらに閉会にあたり、澤 俊行産学・地域連携センター長が、「この研修会は、国際産学官連携活動に必要とされる国際法務・契約・リスク管理を焦点に合わせ、国際産学官連携活動に携わっている方、これから携わる方の役に立てばよい」と挨拶した。会場には五十二名の大学・公的機関の教職員、産業界からの参加があり、講演を熱心に聞き入っていた。(写真は挨拶する藤岡副理事・機構長)

